

2024年度 学校自己評価

東海大学付属市原望洋高等学校

()内の数値は2023年度のもの、評価は5点満点

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	①生徒一人ひとりの確かな学力と思考力を育成し、大学での専門教育を受けるために必要な学力を身に付けさせる。 ②進路指導に伴う具体的な指導内容を確立し、生徒の個性や適性を十分に伸ばす指導を実践する。 ③「文武両道」「学習と部活動の両立」を目指した「学校改革」を推進し、具体的な取り組みと情報発信を行い本校独自の特色ある教育の実践をめざす。	《成果》 ・教育環境の整備、特にICT環境整備への継続的な取り組みが高く評価された。教育力向上を目指し、授業時間の確保と密度の濃い学習形態での学習活動に一定の成果がみられ、授業に対する生徒の満足度は比較的良好な評価を得た。 ・学習指導の充実を図るために、各教科で授業見学及び授業検討会を実施し、教員の授業力向上を図ることができた。 《課題》 ・今後も現状に満足することなく、さらなる研究と工夫を行う必要がある。 ・ICTをはじめとした教育環境の整備と改善は、継続して取り組む必要がある。 ・本校の教育活動の成果は、ホームページ、またはSNS等を活用して、積極的に発信する必要がある。 ・様々な取り組みを迅速かつ正確に情報発信する必要がある。 ・生徒の主体的・能動的な学習をさらに推し進めるべく、アクティブラーニング等の研究を行い、学習活動に反映させる必要がある。	生徒 3.8 (3.7) 保護者 4.0 (4.0) 教員 3.9 (3.7)	・今後も中長期的な計画の下、施設・設備をはじめとした学習環境の充実を図る。また、充実した学習が生徒の学力向上へと繋がる具体的な方策を検討して実践する。 ・個々の教員が生徒による授業評価アンケートの結果を受け止め、その結果を教科で共有して組織的な授業改善を図る。 ・本校の教育活動の成果を校内外に積極的に発信し、本校に対する地域の理解と評価を得られるようにする。 ・大学の付属校としての特色を打ち出し、学園のスケールメリットを生かした教育を推進すると共に、生徒の個性や適性を伸ばすプログラムを実践する。 ・本校の発展のためには、教育活動の活性化と学校改革が必要であることを、全職員で共有する。
学習指導	①家庭学習の習慣化のための具体的な方策を検討・実施する。 ②わかりやすい授業展開を基本にし、主体的で能動的な取り組みを中心にした生徒参加型授業の実施によって、生徒の学力向上をめざす。	《成果》 ・学校評価アンケートのうち、「授業の指導方法や内容を工夫しているか。」等の問いでは、生徒・保護者・教員全てに渡って、生徒は「学力がつけていると思いますか」についても高い評価を得た。 《課題》 ・ICT教材も含め、内容を工夫している授業も多く、生徒もそれに対して一定の理解を感じている。しかし、家庭学習や意欲的な取り組みに対する評価は高くないことから、理解させることに加え、生徒が意欲的に取り組もうとする仕掛けが必要と考えられる。	生徒 3.6 (3.6) 保護者 3.6 (3.5) 教員 3.9 (3.9)	・全体に対して用いるICT教材に加え、個々の評価ができる教材を多く取り入れ、特にできていることを評価し、より学びたいという意欲につなげる。 ・生徒の主体的・能動的な学習をさらに推し進めるべく、アクティブラーニングを取り入れる。
クラス指導	①生活指導を重視して「躰」の徹底をはかる。 ②生徒・保護者との信頼関係を構築し、充実した学校生活をめざす。 ③教室の整理整頓を常に心がけ、クラス環境の充実に努める。	《成果》 ・生徒、保護者ともに「学校が楽しい」ということに関する評価が高い。教員も、生徒間の人間関係構築を重視し、クラスの中でのそれぞれの居場所ができるように務めている。 《課題》 ・クラス全体としては、楽しい雰囲気でも過ごしている様子が見え始めるが、保護者は、生徒個々の悩みなどへの対応も求めている。個々の悩みや問題にも対応して、より生徒の満足度を高めていく必要がある。	生徒 3.8 (3.8) 保護者 4.0 (3.9) 教員 4.3 (4.2)	・生徒とクラス担任とのより良い関係を紡ぐために、生徒個々とのつながりも重視し、生徒から気兼ねなく担任へ悩み等も話ができる環境をつくる。 ・ホームルーム活動では、生徒個々の特性に応じたコミュニケーションを図り、学校に必ず理解者がいるということを感じてもらい、生徒が安心して学校生活を送れるように努める。

2024年度 学校自己評価

東海大学付属市原望洋高等学校

()内の数値は2023年度のもの、評価は5点満点

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
生活指導	①服装・頭髪といった「身だしなみ」指導の徹底を図る。 ②マナー・モラル教育の徹底を図る。 ③情報モラル教育を充実させる。	《成果》 ・「身だしなみ」については、概ね良好であり、生徒に自覚を持たせる指導ができた。 《課題》 ・公共の場におけるマナーに関しては、引き続き指導をしていく必要がある。 ・SNSに起因する問題を未然に防ぐためにも、情報モラル教育を体系化する必要がある。	生徒 3.8 (3.7) 保護者 4.2 (4.2) 教員 4.3 (4.1)	・定期的に公共マナーやモラルに関する指導を実施する。 ・情報モラル教育を各学年で確実に実施し、トラブルを未然に防ぐ。
進路指導	①自己理解の深化と自己の受容、職業観・勤労観の確立、そして将来設計の立案など、高校1年次からの継続的なキャリア教育を推進する。 ②積極的な情報提供を行い、自身のこととして選ぶ・決断する姿勢を育成する。 ③東海大学との連携を強化し、生徒・保護者が付属推薦制度をしっかりと理解できる進路指導を推進する。	《成果》 ・東海大学関係の説明会、体験授業等を実施した。通信システムや校内掲示板を活用し、ポスターや案内を行い、生徒の積極的な参加がみられた。 ・2024年度は進路選択のきっかけづくりとして、職場体験・会社見学を実施した。延べ88名の生徒の申込があった。参加中も前向きな姿勢で取り組み、充実した体験となった。また、その様子を学校SNSで積極的に発信した。 ・年度内の節目節目において、通信システムの多目的掲示板及び校内掲示板で、進路情報を発信し、家族で考えるきっかけとした。 ・外部進路サポート教材や講演を導入し、進路計画に活用した。 《課題》 ・会社見学の日程や人数制限で参加できなかった生徒がいるため、参加しやすい日程を計画し、マンネリ化しないよう、様々な企業の依頼が必要である。 ・情報共有を意識して、丁寧かつ細やかな進路指導が行われるよう、全教職員が東海大学について理解するための取り組みが必要である。	生徒 4.2 (4.1) 保護者 4.0 (3.9) 教員 4.3 (4.2)	・通信システム、校内掲示ポスターにて、注目を惹く案内を行い、積極的な参加を促せるように心がける。 ・また、様々な進路行事を立案し、職業観・学問観を醸成する。 ・各学年での情報共有を行い、生徒に還元させるとともに、面談・講話等で進路選択に前向きな姿勢を形成できるようにする。 ・東海大学の説明会実施や学部情報の発信を行い、家庭内での進路に関する話題づくりに活用してもらう。
特別活動	①部活動を通して、豊かな人間性を育むとともに、能動的な活動を推進することで、視野の広い人材の育成を図る。 ②生徒会活動や学校行事等を通じて、生徒の主体性を涵養するとともに、協調性や責任感を育てる。 ③海外英語研修、特別理科講座(BSSP)などの校外での学習も充実させる。	《成果》 ・部活動においては、運動部を中心に積極的な活動を行うことができた。その活動を能動的におこなうことで、人格の形成に繋げることができた。 ・生徒会活動が、活発化することにより、生徒の主体的な取り組みが行われた。 ・これまでのTGG(東京グローバルゲートウェイ)での英語研修に加えて、BH(ブリティッシュヒルズ)における2泊3日の英語宿泊研修を実施した。 《課題》 ・学習と部活動のさらなる両立を実現する。 ・為替相場の影響もあり、夏期海外英語研修への参加者が少なく、実施ができなかった。より多くの魅力をアピールすることで、参加者を募っていく。	生徒 4.2 (4.1) 保護者 4.1 (4.0) 教員 4.4 (4.3)	・部活動に対する真摯な取り組みが、学習活動へと繋げられるようにする。 ・生徒の自主・自立を重んじる指導スタイルの実現を図る。 ・生徒会活動をさらに充実させることで、生徒一人ひとりの主体性を高める。 ・英語研修については、募集期間を長く取り、内容を理解してもらうための説明会やチラシをつくり、研修の魅力を発信する。